

## 2. 実践事例

運動部活動地域連携再構築事業

## 地域のスポーツ指導者との連携を生かした運動部活動の推進実践例

学 校 名 藤岡市立北中学校（群馬県）  
全校生徒数 611名（男子309名 女子302名）  
種 目 等 女子ソフトテニス部  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0274（22）1352  
学校メールアドレス fujikita@school.gsn.ed.jp

- 1 研究のねらい
  - （1）地域のスポーツ指導者と共通理解を図りながら取り組むことで、顧問の負担軽減と指導力の向上を図る。また、共通した指導・助言を適切に行うことにより生徒の意欲の向上を図る。
  - （2）地域のスポーツ指導者と連携を図った運動部活動の推進により、活動の活性化を図る。
  - （3）地域のスポーツ指導者と連携を図った個別的専門的な指導により、競技力の向上を目指す。
- 2 研究の取組体制
  - （1）年度当初、地域のスポーツ指導者と管理職・顧問が、指導方針や安全・安心に基づく指導計画などを打合わせる機会を設定し、共通理解を図る。
  - （2）顧問とは、練習内容や練習時間の調整、各種大会への参加等について、定期的に打合せを行う。
  - （3）年度初めに「部活動保護者会」を開催し、顧問、地域のスポーツ指導者の指導方針や活動についての詳細を保護者に説明し、理解と協力を求める。
- 3 研究の概要（地域のスポーツ指導者の協力を得た運動部活動の推進）
  - （1）役割分担の明確化  
地域のスポーツ指導者は、昨年まで大学で現役競技者として活躍していたため、専門的な技術はもちろんのこと、ソフトテニスに関する情報量が豊富であり、生徒の技術的な知的欲求にも丁寧な理にかなった説明や対応ができる。しかし、生徒が指導者から直接指導を受ける時間は限られるので、スキルアップのためのトレーニング方法や、試合における戦術的なアドバイスを顧問が受け、練習や試合に生かした。
    - ①技術指導に関しては地域のスポーツ指導者のノウハウを生かした指導計画に沿った練習を心掛ける。
    - ②日常の練習指導及び大会の申込みや保護者への連絡などの渉外的な部分は顧問が行う。
  - （2）指導上の確認事項
    - ①部員の様子や健康に関すること等、顧問と地域のスポーツ指導者とで情報を共有し、個別に支援していく。
    - ②指導計画の作成・変更や大会参加への選手の決定は、顧問と地域のスポーツ指導者で協議し決定する。
  - （3）指導方針
    - ①基礎・基本の充実を目指した（能力別の指導、特に初心者である1年生への細やかな指導）。
    - ②体力の向上や基本動作の定着を指導の重点とした。
    - ③運動部活動を通しての態度面の向上。挨拶やマナー、日頃の生活など、技能以上に態度面の向上を大切にした。

## ○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 一斉指導の場面と、経験者・初心者に分けての能力別指導を顧問と地域のスポーツ指導者が連携して行い、部員の負担等を考慮しながら無理のない活動を行い、怪我等の防止に配慮した。
- 2 技能レベルによって班編成をし、個に応じた指導を行った。
- 3 個の技能レベルを確認し、個に応じた練習課題を提供することにより、生徒に負担のかからない練習を行うことができた。
- 4 練習には顧問か地域のスポーツ指導者のいずれかが必ず付くようにした。また、練習前や練習後の健康状態については、常に両方で情報交換を行うようにした。
- 5 地域のスポーツ指導者は、緊張感のある練習の中にもユーモアのある話題で楽しい雰囲気を作り、生徒のやる気と集中力を持続させた。
- 6 生徒の体調や環境に合わせて練習内容を工夫した。例えば、夏季には、熱中症にならないよう、水分補給や休憩などを、気温・湿度や生徒の体調等から適切に取り入れるよう留意した。蒸し暑いときは、話し合いなどの活動を多くし、熱中症を予防した。

## ○成果と意義と今後の課題

- 1 顧問と地域のスポーツ指導者の指導方針や指導内容が明確になり、一体化した指導ができるようになった。生徒は迷うことなく指導を受け入れられるようになった。さらに、学習面・生活面も安定するなど模範的な部となってきた。
- 2 専門的な技術や戦術面について、部員に適切な助言をしてもらえるので、選手は自分の課題が分かり、練習や試合で生かすことができ、活動への意欲が高まった。
- 3 地域のスポーツ指導者の活用により、顧問の負担が軽減された。
- 4 課題としては、地域のスポーツ指導者の支援体制をより充実させる必要がある。実質はボランティアとしての活動に頼っている現状である。可能であれば、委託期間以外も年間を通して指導を依頼したい。

## ○研究内容

### 【練習前のミーティング指導】

本日の練習のポイントを分かりやすく話す。



### 【基本練習中の指導①】

ボールの打点や足の運びをみんなに説明。



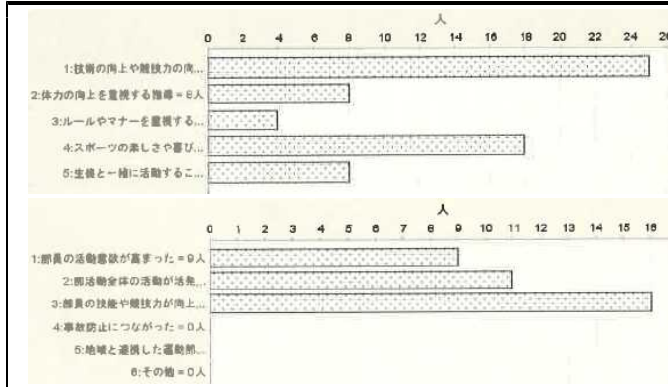
### 【基本練習中の指導②】

バックストロークのフォームの確認。



### 【ファーストサーブの示範】

指導した内容を実際のプレーで確認。



### 【アンケート調査・生徒①】

地域のスポーツ指導者に期待する指導について

### 【アンケート調査・生徒②】

地域のスポーツ指導者の指導による自身の効果について

### 【練習後の様子・コート整備】

コート整備は最も大切と力説。生活面の指導も充実。



### 【毎回、顧問と事前の打合せ】

顧問とのコミュニケーションが生徒への指導には欠かせない。



地域のスポーツ指導者の活用に関するシステムの在り方  
～スポーツトレーナーを活用した運動部活動における実践例～

学 校 名 鹿児島県立鹿児島南高等学校(鹿児島県)

全校生徒数 949名(男子441名 女子508名)

種 目 等 陸上競技部, 剣道部, 野球部

(本事例に係る問合せ先)

電 話 番 号 099(268)2255

学校メールアドレス minamihi@pref.kagoshima.lg.jp

- 1 研究のねらい
  - (1) 学校における運動部活動の現状と課題等を検討し、運動部活動の活性化を図る。
  - (2) 専門性の高い地域のスポーツ指導者と学校が連携を図り、運動部活動の充実と顧問の指導力向上を目指す。
- 2 研究の取組体制
  - (1) 活用システム検討委員会の設置
    - ①地域の実情に応じた地域のスポーツ指導者の活用に関するシステムの在り方について調査研究を行う。
    - ②委員会のメンバーは、外部の有識者及び関係団体・地域のスポーツ指導者、実践校代表、市教育委員会代表で構成し、年2回開催する。(7/18, 2/24)
    - ③実践校訪問において指導・助言等を行う。(9/2)
  - (2) 実践校における研究体制
    - ①地域のスポーツ指導者を活用した運動部活動の在り方に関する研究チームを設置する。
    - ②構成メンバーは、教頭、体育科主任、部活動係チーフ、地域のスポーツ指導者派遣対象運動部顧問で構成する。
    - ③実践研究及び研究成果の検証、報告
- 3 研究の概要
  - (1) 地域のスポーツ指導者を活用した運動部活動の在り方
    - ①地域のスポーツ指導者と学校の適切な連携
      - ア 各部活動の現状と課題等の検討
      - イ 地域のスポーツ指導者の選定及び要請
      - ウ 管理職による地域のスポーツ指導者との面接
      - エ 学校長からの委嘱、学校側の部活動方針等への共通理解
      - オ 職員会議での周知、生徒・保護者への連絡
    - ②地域のスポーツ指導者と部顧問との連携
      - ア 練習時間、練習内容、年間の大会スケジュールの検討
      - イ 各部員の力量や保護者会に関する情報の共有
      - ウ 地域のスポーツ指導者の指導方針等及び条件面の確認
  - (2) スポーツトレーナーの専門性を生かした指導の工夫
    - ① 陸上競技部の部員、マネージャー等に対する怪我への対処法や予防法の指導
    - ② 相談体制の整備及びトレーナー活動の実践
    - ③ 顧問に対する科学的トレーニング法等に関する研修

## ○生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 顧問は、練習前に部員の心身状況や疲労度を自己申告させ、練習内容に反映させた。
- 2 スポーツトレーナーは、部員の体調等に応じた自主トレーニングメニューの紹介や練習後のケアについてアドバイスした。

## ○成果と意義と今後の課題

- 1 地域のスポーツ指導者と学校が連携を深めることにより、運動部活動の活性化が図られた。
- 2 地域のスポーツ指導者を活用した運動部活動において、九州大会・全国大会等で上位入賞するなどの実績を挙げることができ、競技力の向上及び顧問の指導力向上が図られた。
- 3 陸上競技部においてスポーツトレーナーを活用し、効果を得ることができたが、今後は、すべての運動部活動において、スポーツトレーナーを活用できる体制の構築を図っていく必要がある。

## ○ 研究内容

### 【地域のスポーツ指導者と顧問の事前打合せ】

トレーナーと顧問の意思疎通を図るため、事前打合せを実施。



### 【専門性を生かした指導】

個に応じた自主トレーニングの指導を行った。



### 【試合会場での様子】

全国大会で上位入賞を果たし、競技力向上が図られた。



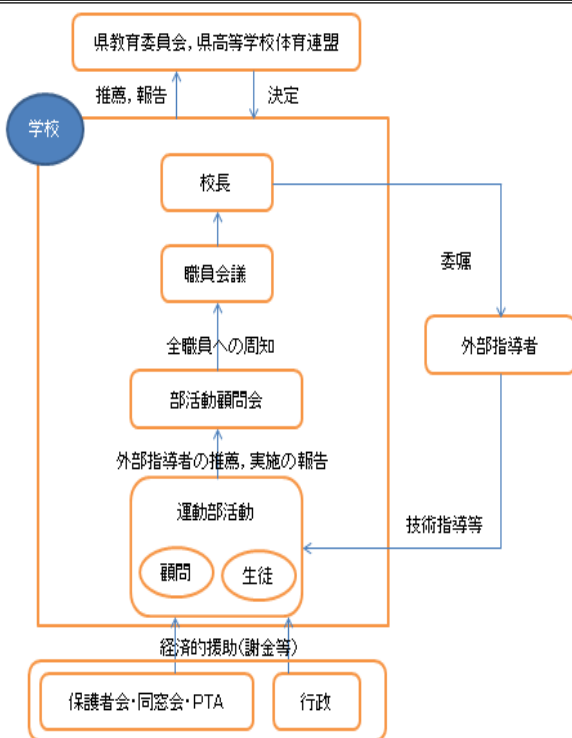
### 【スポーツトレーナーのチェック表】

陸上競技部におけるコンディショニングチェック表



### 【地域のスポーツ指導者活用システム】

学校での地域のスポーツ指導者活用の在り方について検討した。



### 【研究チームによる研究の様子】

地域のスポーツ指導者と学校の連携について意見交換を行った。



### 【実践校における成果等】

地域のスポーツ指導者派遣対象部における成果について

- ① 日常のコンディショニングから大会直前の調整法まで指導していただき、全国高校総体や国体等での上位入賞につながった。
- ② 教職員としての剣道指導の経験が豊富で生徒・保護者からの厚い信頼があり、本校生徒の健全育成に寄与していただいた。
- ③ 部員や保護者、OBからの信頼も厚く、野球に取り組む姿勢を重視した指導に当たっていただいた。

## 新しい形態及び運営による運動部活動 活性化の実践例

教育委員会名 杵築市教育委員会（大分県）

種 目 等 女子サッカー部

（本事例に係る問合せ先）

電 話 番 号 0977 (75) 2411

メールアドレス [gakukyo@city.kitsuki.lg.jp](mailto:gakukyo@city.kitsuki.lg.jp)

### 1 研究のねらい

- (1) 生徒の多様なニーズに対応した形態及び運営等による運動部活動への参加機会の確保。
- (2) 参加意欲を高めるための関係団体との連携についての実践研究による運動部活動の活性化。

### 2 研究の取組体制

- (1) 「地域実践研究協議会」を設置し、以下のことについて協議した。

- ①構成メンバーは、市教委教育長を本部長とし、各中学校長、中学校サッカー部指導者、県・地元サッカー協会関係者、合同チーム顧問等、同地域のスポーツ指導者等、同保護者代表、地域少年・高校サッカー指導者代表、地域スポーツ団体関係者、市教委関係者等 32 人。
- ②年 3 回（6/14, 11/29, 2/14）開催。協議会の組織作り、実態把握、事業内容検討・修正、成果の検証及び今後に向けての協議等を行った。第 3 回は悪天候のため協議ができず、アンケートにより意見交換をした。

### 3 研究の概要

- (1) 杵築合同女子サッカー部（杵築なでしこ）の運営

- ① 3 中学校からなる合同部活動を週 1 回実施し、中学校における女子サッカー活性化を行った。
- ②顧問並びに各中学校からの副顧問を配置した。
- ③県サッカー協会から推薦を受けたコーチ〔日本サッカー協会ナショナルトレセン（NT）コーチ〕及び 2 名の地域のスポーツ指導者を招聘し、指導を行った。

- (2) 「杵築なでしこサッカースクール&講演会」「杵築なでしこ練習会」の開催

- ①日本サッカー協会の推薦により、U-16 女子日本代表監督でありオリンピック出場の元女子日本代表選手、ワールドカップ等で活躍のヤングなでしこ選手らをゲストコーチとして迎え、小中学生対象のサッカースクール、練習会と保護者をはじめ一般も含めた講演会を開催した。

- (3) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- ①学校の指導者と専門的指導技術を持った NT コーチが連携して、より質の高い指導ができるよう工夫した。
- ②日本サッカー協会の推薦を受けた著名な指導者や選手を招聘することにより、参加意欲の向上に向け工夫した。

## ○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 市営サッカー場を年間契約し練習場として使用した。また、各学校からの選手輸送に際して、市でバスを借り上げ、往復安全輸送を行った。
- 2 選手の技術の段階に応じ、NT コーチや地元指導者を委嘱し、指導を行った。

## ○成果の意義と今後の課題

- 1 合同チームで活動することにより仲間と一緒に練習ができた。また、著名な指導者や選手から直接指導を受け、参加意欲が高まった。
- 2 合同チームであるが故、今後、生徒同士の人間関係づくりを進めていく必要がある。また、少子化・過疎化の中で部員確保をするため、小・中・高の連携がますます重要になってくる。

## ○ 研究内容

### 【(1) 合同女子サッカー部「杵築なでしこ」】

市内3中学校の生徒が集まり毎週木曜日に練習



### 【(2) 杵築なでしこサッカースクール】

U-16 女子日本代表監督をゲストコーチに 87 名参加



### 【(3) 杵築なでしこ講演会】

U-16 監督「なでしこの挑戦～未来に向かって～」



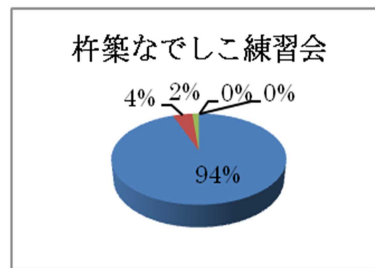
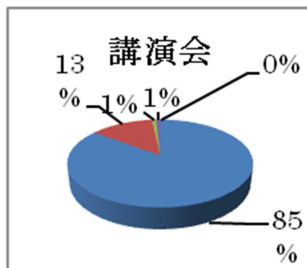
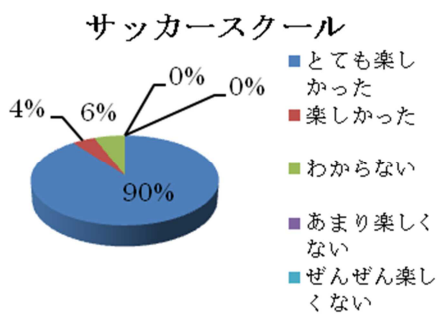
### 【(4) 杵築なでしこ練習会】

夢の対決実現！なでしこ軍団VS小中学生



### 【各種イベント参加者アンケートより】

サッカースクール 87 名, 講演会 220 名, 練習会 71 名参加



### 【地域及び関係団体との協働による運営】

小・中・高・地域のスポーツ指導者・地元指導者・地域が一体となってチームを支えてくれました。

(1) 地域実践研究協議会では、各方面より意見をいただき、運営に生かすことができた。今後とも、小・中・高校及び地域スポーツクラブ等との連携を進めていきたい。

(2) 関係団体の絶大な支援があり、イベント等を開催することができ、生徒等は貴重な経験をする事ができた。感謝したい。

地域や地域のスポーツ指導者との連携を通して、チーム力の向上を目指した実践例

学 校 名 越前市武生第二中学校（福井県）

全校生徒数 474名（男子236名 女子238名）

種 目 等 男子卓球部

電 話 番 号 0778(23)1422

（本事例に係る問合せ先）

学校メールアドレス takefudaini\_ju@city.echizen.lg.jp

1 研究のねらい

- （1）地域のスポーツ指導者、協会、クラブとの関わりを通して、地域との連携を深める。
- （2）顧問と地域のスポーツ指導者との指導の一体化と強化、チーム力の向上を図る。

2 研究の取組体制

本校では、校長、教頭、部活動総括、体育主任、体育科教員が中心となって運動部活動に関する課題や諸問題解決に当たっている。今回の研究も、先生方のアドバイスを受け、今年度福井県の代表として行われた、中学校体育部活動研究大会の実践発表を基に取り組んだ。

3 研究の概要

（1）男子卓球部顧問と地域のスポーツ指導者の連携

地域のクラブ指導者との連携や競技力向上などを目的に地域のスポーツ指導者を積極的に活用している。現在2名が我が校の地域のスポーツ指導者として、中体連に登録もしている。1名は越前市卓球協会の強化部長、地元クラブの監督（公認コーチの資格を保有）。もう1名は地元クラブコーチとして、地域でも卓球の振興に尽力している方である。メリットとしては、自分だけの指導では見えてこないものや、いろいろな視点で物事を捉えることなどが挙げられる。大会時の団体戦、個人戦のベンチコーチ、練習試合、日々の練習など、二人で話し合いながら協力して行っている。

（2）地域の卓球協会との連携

越前市卓球協会は本校を拠点に、月1回越前市ジュニアリーグという強化練習会を開催している。運動部活動の他に、協会の活動を利用することで練習時間も増える。さらに、卓球台や試合球など市の協会からの補助を受けることもでき、地元地域と連携して強化を行っている。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 ランニングや準備運動、ストレッチを入念に行う。
- 2 必ず顧問が体育館に生徒より先に赴き、生徒の様子を観察する。
- 3 卓球台や用具を生徒の通る道に置かないなど、怪我に配慮した配置にする。
- 4 技術レベルによって班編制をし、それぞれの目的に合った指導を実践する。

○成果と意義と今後の課題

地域のスポーツ指導者や地域と連携することで、地域から応援されるチーム作り、また練習時間や機会の確保により選手の強化につながった。顧問と地域のスポーツ指導者がもっとよく話し合いの場を設け、指導について、方向性を同じくしていくと更なる飛躍が期待されると感じた。



## ○研究内容

### 【部活動黒板の活用】

選手への意識付け、目標の明確化のために分かりやすく。



### 【地域のスポーツ指導者による最新の練習を導入】

ナショナルチームでも行っているビジョントレーニング。



### 【地元クラブへの参観】

指導者自身のスキルアップ、選手強化の連携のため参観。



### 【協会主催のリーグ戦】

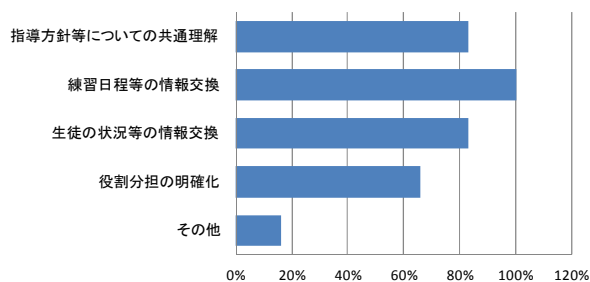
月1回武生二中で行っている、越前市強化リーグの様子。



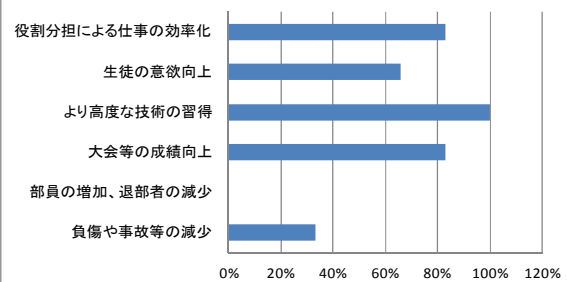
### 【顧問教諭による地域のスポーツ指導者についてのアンケート（男女卓球、男女ソフトテニス、剣道、フェンシング）】

地域のスポーツ指導者が実際に部活動指導に携わることへの意識調査の結果

#### 連携の具体的な内容（%）複数回答



#### 外部指導者の協力により改善された点（%）



### 「今後の学校の取組」

今年度継続してやってきた取組を、地域のスポーツ指導者を導入している部活動のみならず、その他の部活動にも推進していきたい。地域のスポーツ指導者を積極的に活用し、また地域のクラブ、スポーツ少年団、各協会とも協力し、部活動運営が円滑に進められることが望まれる。また、学校の教職員の意識改革も行い、この取組が生徒達のさらなる成長の一助となっていくことを期待したい。